

東京都現代美術館 美術図書室にて「RETISSA ON HAND」をご利用いただけます

東京都現代美術館では、2024年1月10日(火)～2024年3月10日(日)までの間、地下1階美術図書室にて網膜投影型視覚支援機器「RETISSA ON HAND (レティッサ オン ハンド)」の試験導入を行います。

「RETISSA ON HAND」とは、株式会社 QD レーザが開発した弱視者（ロービジョン者）といった見えづらさを感じている方の視覚を支援する手持ち型の視覚支援機器です。網膜に直接投影する新技術「ビジリウム® テクノロジー」によってピントのあった映像を網膜に直接投影します。

ご希望の方は、美術図書室内での資料閲覧の際に無料でご利用いただけます。美術図書室内司書カウンターにてお申し出ください。

※機器の台数に限りがございます。

※貸出は先着順、お一人様最大2時間までとなりますので、予めご了承ください。

【RETISSA ON HAND とは】

手持ち型のレーザ網膜投影型視覚支援機器です。電源を入れて覗くだけで、内蔵カメラが撮影する映像を視野角 60 度で網膜に投影します。バッテリー内蔵で見たいものがある時にどこでも利用可能です。等倍から 7 倍までのズーム機能を搭載し、近くのものから遠くのものまで見る事が可能です。明るさの調整、グレースケール表示、白黒反転、映像の一時停止など画像処理機能も掲載しています。



RETISSA ON HAND 特設ページ：<https://retissa.biz/retissa-onhand>

【レーザ網膜投影技術とは】

赤青緑の半導体レーザから生まれる微弱なフルカラーのレーザ光が瞳孔の中心を通り、網膜を高速に走査することで、鮮やかな画像を投影します。ピントを合わせる機能を担っている水晶体などの眼球前部の状態に影響を受けにくいのが特長です。視野の中心部だけではなく、周辺部に投影されている映像もピントが合います。

※RETISSA ON HAND は医療機器ではありません。

※特定の疾患の治療や補助、視力補正を意図するものではありません。

【眼の状態ごとの見え方の違い】

※見え方には個人差があり、見える可能性については目安となります。

見える可能性	眼の状態
高い	<ul style="list-style-type: none">・ 網膜に変性や欠損、異常がなく、映像を楽しむことができる。・ 目安となる例：近視、遠視、乱視、老眼
	<ul style="list-style-type: none">・ 水晶体や角膜に変性や欠損、異常はあるが、網膜の視細胞の感度・分解能が高い。・ 映像を認識しづらい部分はあるが、おおむね映像を楽しむことができる。
低い	<ul style="list-style-type: none">・ 網膜の変性や欠損、異常により、網膜中心部の視細胞の感度・分解能が低い。・ 網膜周辺部で映像を認識できる可能性がある。
	<ul style="list-style-type: none">・ 網膜の変性や欠損、異常により、網膜全域の視細胞の感度・分解能が低い。・ 映像は、部分的に認識できる可能性がある。
難しい	<ul style="list-style-type: none">・ 視神経に障害があり、網膜に投影した映像を脳に伝達することが難しい。・ 目安となる例：全盲、明るさを感じる程度の見え方

※この取組は、クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョーの一環で実施しています。